

# 放射性水および水溶液

## *Radioactive waters and solutions*

*Editorial. J Am Med Assoc 93-771-2, 1929*

化学者が新しい物質を発見し、物理学者が新しい力を発明し、哲学者が新しい思想を唱えると、常にパテント師や興行師がその物質や力や思想を、病気の治療に使って儲けようとするものである。医学の歴史は、これを証する事例に事欠かない。金療法、電気療法、磁気用法、ラジウム療法、暗示療法など、米国医師会調査部には数多くの事例がファイルされている。

米国医師会の薬学化学審議会 (Council on Pharmacy and Chemistry) が、ラジウム溶液、ラジウムエマネーションを含むさまざまな処方、ラジウムエマネーションを飲用水に注入するさまざまな器具を、当時のデータに基づいて「新しい非公式治療法」(New and Non-official Remedies) に掲載してからまだわずか数年である。実際のところ、エビデンスの量だけは多く、管理は不完全であるが、このような治療法に対する医師の需要は大きく、審議会は少なくともラジウム含量、ラジウム放射能の最低限の標準を定めることは有意義なことと考える。実際、きわめて多くの製品が市場に出回っており、中には効果を発揮するには不十分なラジウムしか含まれていないものもある。ラジウム水のガラス瓶を近づけても、検電器の箔が微動だにしないものもある。このような製品が登場して、すでにかかなりの時間が経過しているが、放射性飲料水が病気に有効あるいは健康に良いとするエビデンスは少なく、科学的意義も低いものである。これをめぐる最近の論文は、証明が得られないあるいは不十分であるとして、否定的なものが多い。このため薬学化学審議会は、以下の様な声明を発表した。

入手可能なエビデンスを精査した結果、ラジウム溶液あるいはラドンを含む水の、慢性関節炎、痛風、神経炎、高血圧における効果は対照臨床試験で証明されなかった。長年にわたる試験にもかかわらず、受容しうるエビデンスが得られておらず、そのようなエビデンスが得られるまで、審議会は静注目的のラドン水、ラジウム水の製造装置を認可しないことを決定した。

薬学化学審議会の声明は、あらゆる種類の溶液あるいは溶液の製造装置を、それが相応のラジウムを含んでいるものであれ、あるいはチキンの煮込みで香り付けただけのチキンスープのように形ばかりの放射能を含むものであれ、その謳うところを否定するものである。現在、審議会の報告が掲げる効能だけでなく、貧血、若返り、再生、白血病、おでき、毛穴の黒ずみ、にきびなどにも効くとするラジウム水、ラドン水が、医師および一般に提供されている。若返りは、このようないかげわしい処方や器具のキャッチフレーズとなっている。業者は隠れた願望につけ込み、インポテンツの治療効果を仄めかす文言を使おうとする。特にラジウムの放射能の多寡にかかわらずである。しかし、審議会の声明はこれをすべて解決するものである。コメディアン The Two Black Crows の舞台上、Moran がトランペットを吹く真似をすると、相棒の Mack が「うまいかも知れないけど、だめだね」という場面がある。ラジウム水で言うなら「放射能があるかも知れないけど、だめだね」といったところであろう。